

母乳通信 第13号

母乳通信は、しんしろ助産所の母乳育児に関する考え方と手技をまとめた通信です。
母乳で育てたいプレママ・ママを応援します。

【授乳とインフルエンザ】

インフルエンザについて授乳中のおかあさんの疑問におこたえします。



Q1. 授乳中のおかあさんがインフルエンザにかかってしまった時、授乳はしていいの？

おかあさんがインフルエンザにかかっても授乳をやめる必要はありません。 インフルエンザは咳やくしゃみなどによってうつります。ウィルスは気道粘膜で増殖するため、血液中には出現しません。母乳は血液からつくられるので、母乳を飲んだからといって赤ちゃんに感染するわけではありません。ただし、赤ちゃんのお世話を通して感染する可能性はあります。手をしっかり石鹸で洗い、授乳時にはマスク（ガーゼのマスクではウィルスが通過してしまうため、不織布製のもの）をつけましょう。「高熱やひどい咳が続く」「関節痛が激しくつらい」などの時は手助けがあればお願いし、休養をとりましょう。その場合は、可能な範囲でおっぱいをしぼり、あかちゃんに飲ませてもらいましょう。

Q2. 授乳中に抗インフルエンザ薬を飲んで大丈夫でしょうか。



現在、日本の抗インフルエンザ薬には、タミフル(内服薬)、リレンザ・イナビル(吸入薬)、ラピアクタ(点滴)があります。

タミフル・リレンザは体内に吸収される量は少なく、母乳中への移行はほとんどないため、授乳中のお母さんが使用しても問題がないといわれています。 イナビル・ラピアクタは比較的新しい薬のため使用例が少なく、授乳への影響は検討中とされています(2011年現在、詳しくは[日本産科婦人科学会ホームページ](#)をご参照ください)。

内服しながらの授乳が心配なら、抗インフルエンザ薬を服用しないという選択もあります。かかりつけの医師や薬剤師に相談してみましょう。



Q3. 授乳中でもインフルエンザの予防接種を受けられるの？

授乳中(妊娠中も含めて)でもインフルエンザの予防接種を受けることはできます。 インフルエンザの流行シーズン前に、家族で予防接種をうけることをおすすめします。

* 体調が悪い間はおっぱいのケアが十分にできないこともあります。しかしおっぱいは飲ませなかったり、搾らなかつたりしているうちに徐々に出が悪くなってしまいます。インフルエンザが治ってからも母乳育児を続けられるよう、無理のない範囲での搾母乳・直接母乳を心がけましょう。

しんしろ助産所